

ここは

じゅうさん おきなが しんめい はいすいき じょう 十三沖永神明排水機場

です



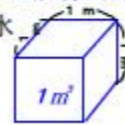
ここからいらぬ水を吸い込む



これが排水機(ポンプ)だよ

建物の中には3台の排水機がある

ここには3台の排水機があり、1秒間に19m³の排水(いらぬ水)を吸い上げ日光川に流すことができます。この3台の排水機を運転すると25m³の水を約19秒で排水することができます。



問：なぜ排水機場が必要なんだろう？
答：この辺りの地形に関係しています。
海より低い土地だからです。

津島市、愛西市、弥富市、あま市と海部郡2町1村がある海部地域は、弥生時代以前(約三千年前)は伊勢湾の海の底だったと考えられています。その後千数百年の間に木曾川の流れによって運ばれてきた土でできたじめじめした土地が少しずつ人々が住める陸地になり、江戸時代から明治の初めにかけて海水を干して新しい土地にする海面干拓により新たな土地が生まれました。

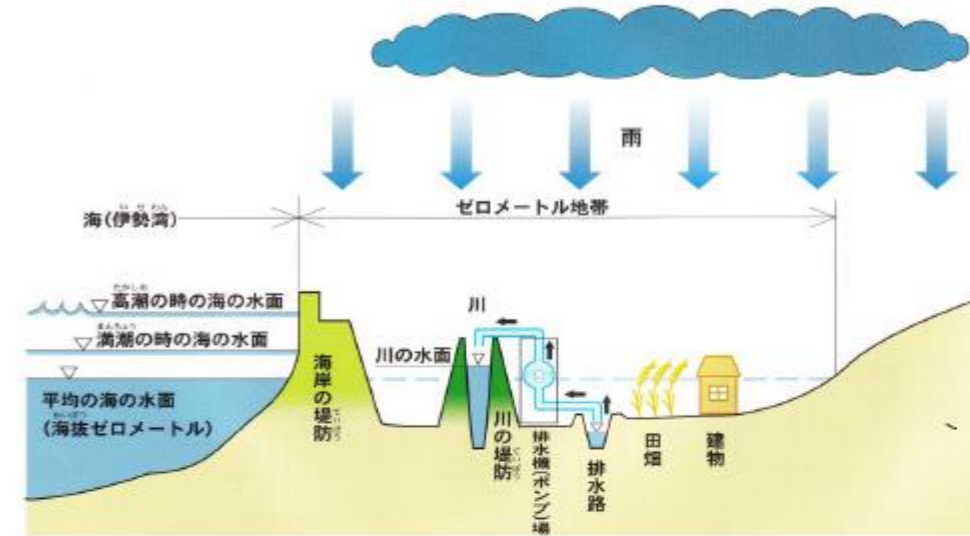
このようなことから、海部地域の地形は平らでもともと地面が低かったことと、昭和30年代ごろから地下水のくみ上げが原因で地面が沈んで海の水面より低い状態、いわゆるゼロメートル地帯になってしまいました。



この図は、海よりも低いところなんだ。



問：なぜゼロメートル地帯に排水機(ポンプ)が必要なの？
答：排水機(ポンプ)は海部地域の生命線だからです。



ゼロメートル地帯を流れる川の多くは川の水面の高さが土地や建物よりも上にある天井川で、さらに満潮の時には上流まで川の水面が上がります。そのため、ゼロメートル地帯では、降った雨が自然に川へは流れ、海へ流れ出ることはありません。もし雨が降ると、水がたまるので、たまった水をくみ出さなければ、海部地域はわずかな時間でもとの海にもどってしまうことでしょう。そこでこの地域の人々は、古くからポンプやいらぬ水を集める排水路の整備に全力をつくしました。

この地域は、古くから農業が盛んでしたが、農地は低地にあるため農家は排水に困っていました。このため、農地や建物などを災害から守る目的でポンプや排水路が建設され、農家の団体である土地改良区などが管理を行っています。近年では、農地ばかりでなく住宅地・市街地が入り混じっているため、地域全体の排水を受け持っています。



ここ十三沖永神明排水機場も日頃からポンプを管理し各家庭から出るいらぬ水や雨水を日光川へくみ出してこの地域を水害から守るために活躍しています。